

本学・言語文化コミュニケーション科における 情報教育の現状と課題*

大 和 田 栄

0. 序

本学、東京成徳短期大学・言語文化コミュニケーション科（以下、言コミ科）では、情報社会と言われる現代社会の要請などもふまえ、2000年度に現在の名称に科名変更して以来、情報科目を科の必修科目として位置づけてきた。また、2003年度から高校の教科「情報」が必修となり、大学においても情報教育の見直しについて多く語られている昨今である。本稿では、言コミ科における情報教育の今後の在り方を模索するために、簡単にここ数年の情報系科目について振り返るとともに、現状を把握した上で、言コミ科における情報教育の在り方について考察する。

1. 言コミ科の情報教育

言コミ科では、2000年度に必修科目として「情報論」と「情報演習」の2科目を基礎科目として設けた。また、2004年度に2つの専攻（日本語文化専攻・英語文化専攻）に分かれていたものを廃止し「言語文化コミュニケーション科（観光・英語・日本文化）」とした際のカリキュラム変更でも、数少ない必修科目として「情報」を設置し、その他の情報系科目も大幅な見直しを行った。

表1の通り、2004年度のカリキュラム変更では、必修科目こそ減少したが、科目数・内容ともかなり充実を図った^{1),2)}。また、2003年度までは上記情報系科目のほとんどすべてを情報処理・情

表1

年 度	2000～03年度	2004年度
科 名	言語文化コミュニケーション科 (日本語文化専攻・英語文化専攻)	言語文化コミュニケーション科
必修科目	情報論 (2) 情報演習 (1)	情報 (1)
選択科目	情報基礎演習A・B (各1) メディア技術演習 (1) 英文ワードプロセッサ演習I・II (各1)	情報メディアリテラシー (2) 情報メディア活用法 (1) ネットワークコミュニケーション (1) プレゼンテーションの技法 (1) メディア技術演習A～C (各1) 情報処理演習A・B (各1) パソコン基礎演習 (1)
科 目 数	7	11

※科目名の後の()内は単位数

報教育を専門とする専任教員1人が担当していた（専門科目として開講していた「情報英語」「データベース演習」などを除く）が、2004年度からは筆者を含む言コミ科の専門科目を担当する3人による分担となっている。まだ1年目途上のため、これらの科目設定についてのトータルな検証はできないが、後述するとおり、専門的な科目との有機的な結びつきをより考えた形で全体の内容を考えていくことが肝要である。

2. 現状把握のためのアンケート調査

インターネットのブロードバンド接続（パソコン・携帯電話）の普及やパソコンの低価格化のおかげで、自宅をはじめインターネットアクセスも容易になり、短大生にとってもインターネット・電子メール・デジタル文書作成・デジタル画像の処理というものは身近になってきていると言える。しかし、過去数年の筆者が行ったパソコン・ネットワーク関連の授業などでの状況からすると、より広範で大規模情報を扱えるパソコンの基本的操作能力やネットワーク資産の活用については、まだまだ十分とは言えず、さらには学生間の知識・技量の差はかなり大きいと考えられる。さらに、2003年度からは高校での教科「情報」が必修となったが、現在の学生はその恩恵に被ってはならず、学校教育内での情報教育科目の履修状況はかなりの多様性があることは否めない。そこで、2004年度入学の言コミ科の学生を対象に、下記の要領で現況を把握するためアンケート調査を行った。

<実施方法・時期>

	第1回	第2回
対 象	2004年度入学生（総数88名）	必修科目「情報」受講者（総数87名）
回答数	87名	82名
時 期	4月・入学直後	5月下旬
内 容	必修科目「情報」を実施する上での参考にするためのもので、比較的短時間に簡単に回答できるように項目も少ないものを作成。	必修「情報」の授業においていくつかの基本的事項について学習をし、アンケートで使用される表現などに多少なり慣れたと思われる段階で、入学時よりは量的にも多く、また内容的にも詳細なものを作成。（但し、入学段階での状況について把握するため、基本的に4月時点での技量・知識として回答をもらった。）
方 法	・用紙を配布し2日後に回収 ・記名式	・必修授業時間内に実施 ・無記名式
用 紙	付録1	付録2

3. 結果・考察

3-1. <第1回目>入学直後³⁾

- ①アンケート実施日：2004年4月3日配布・5日回収
- ②対象：2004年度・言語文化コミュニケーション科1年全88名
- ③回答数：87名（記名式）

④結果・考察

1. 高校でのパソコン授業	
ほとんどなし	43
少し	33
よくあった	11

2. 自宅でのパソコン利用	
なし	46
週1回程度	26
週3回以上	15

3. タイピング	
ほとんどできない・したことがない	25
キーボードを見ながらなら打てる	49
キーボードは少し見るが速く打てる	11
キーボードを見ずに速く打てる	1
無回答	1

4. ワープロの利用	
利用せず、手書き	61
ときどきワープロを使う	24
よくワープロを使って文書作成する	1
無回答	1

5. PC電子メールの利用	
メールアドレス（アドレス）を持っていない。	71
自分用のメールアドレスを持っていて、時々使う。	11
自分用のメールアドレスを持っていて、よく使う。	5

6. インターネットの利用	
ほとんど利用したことがない。	23
時々利用する。	46
かなり利用する。	18

7. トラブルがおきたらどうするか。	
そのままにしておく	5
誰かに頼る	69
自力で解決することが多い。	10
無回答	3

※設問2の自宅でのパソコン利用がありと回答したものの具体的内容は、「インターネット」が圧倒的多数。以下、電子メール・音楽・ゲーム・ワープロなど。

入学段階でパソコンに親しんでいるものはそれ程多くない。また、インターネットの利用についてはホームページの閲覧などに概ね限られ、電子メールの頻度高い利用者は極めて少なく、文書作成の基本的ソフトであるワープロの使用もあまりない。結果、キーボード操作（タイピング）も不慣れであり、ブラインドタッチでスムーズにタイピングできる学生はわずか1名である。但し、この種のアンケートでの回答では、控えめに答える場合もあるので、数字をそのまま受け入れることはできないが、その後の授業でのタイピングの様子を確認した印象では、実態と上記の数字はそれほど逸脱しているものではないと考えられる。但し、アンケート結果からははっきりと数値的に示されていないが、慣れている学生と不慣れで今までほとんどパソコンに触れてことのない学生との間の格差は極めて大きいということは、授業を通して十分感じられた。

また、自宅でのパソコン利用の割合も極めて低く、後の調査の設問から自宅にパソコンがありインターネットに接続している場合でも、それ程積極的に使用している学生は多くなく、電子メールについては約8割が経験なしという状況である。このことは、携帯電話のメール機能が普及・充実したことと関係がある可能性もあるが、女子学生のみの本科においては、そもそも「パソコン」という機械に対しての苦手意識などが最初からあるということも考えられ、設問7の結果からも、他者への依存度が高いことがわかる。こういった学習者が自信をもって操作ができるようになるためには、精神的な面からの意識改革というものも必要であると考えられる。

3-2. <第2回目> 5月下旬^{4),5)}

①アンケート実施日：2004年5月25・27日

②対象：2004年度・言語文化コミュニケーション科1年・必修「情報」履修者87名

③回答数：82名（無記名式）

④結果・考察

A. パソコン操作・インターネット利用

1. パソコン操作の経験（A）	
ある	69
ない	13

2. パソコン操作を習った場所	
中学	42
高校	36
中学・高校（上記の中学・高校の数値含）	18
独学	8
習っていない	13
その他（家族・友人から）	8

3. パソコン操作の経験（B）	
ある	40
ほとんどない	40
無回答	2

4. できる・理解しているパソコン操作	
マウスの操作	70
ウィンドウの開閉・サイズの変更	63
ウィンドウの各部の名称，ボタン，メニューの意味	17
ファイル・ディレクトリ・フォルダの構造の理解	12

5. タイピング速	
キーを1つずつ探しながら打つ	53
何文字かに1回ぐらいキーの位置を探すが，大体覚えている	22
キー配置はほとんど覚えていて，1秒に1～2個の早さで打てる	7
キーを見ないで1秒に数個の速さで打てる	0

6. ホームページ閲覧について	
URLアドレスを入力して特定のページ閲覧	39
検索ページ・サイトを使って，目的のページを探し出せる	63
ネット上からソフトウェアをダウンロードして，パソコンにインストールできる	7
無回答	18

7. 電子メールの送受信	
できる	30
できない	50
無回答	2

8. ワードプロ文書作成	
できる	28
できない	53
無回答	1

この部分は、概ね第1回のアンケートと内容的に重複している部分が多く、また意図的に同じ質問を2カ所で行っている（パソコン操作の経験（A）-（B））箇所もある。選択肢の表現は一部変えているが、具体的な操作内容を直後に示してある（B）では、「経験がある」の数字が減っていることは、「なんとなく操作をしたことがある」という感覚的な回答から、具体的な項目を意識することにより、実際的な回答へと変化したということであろう。別のとらえ方をすると、（A）の「経験がある」という回答者が69名いるものの、「ほんのわずかな」経験程度のものも含まれている、ということであるとも言える。但し、ほとんどが「できる」としている「マウス操作」にしても、全員が右クリック・左クリック・中央ボタンなどの使用について、きちんと理解しているわけではなく、実際のスムーズな使用ができるかどうかという点では、かなり差があることも事実である。

また、パソコンをはじめた（或いは習った）のが、詳細な実時間数などははっきりしないが、高校よりも中学の方が多い。多くの学生にとって4～6年ほど前ということになり、Windowsパソコンでいうと、概ねWindows 98が普及している時期であるが、まだ各家庭へのパソコン・ネットワーク環境の浸透度合いはそれ程高くなく、簡単な聞き取り調査によると中学での授業内容や時間数も様々のようで、全般的にはそれ程多く中学校で学習したわけではないようである。

ホームページの閲覧については、タイピングがあまりきちんとできないせいもあるだろうが、URLの入力よりも、検索サイトからマウス操作のみでサイトを見るという形での利用（ネットサーフィン型）がかなり多い。これは、インターネットを身近なものにする一方で、タイピングの習熟が遅れる原因とも考えられるのではないだろうか。受信のみという形での利用から、発信という形にしていくためには、現状においてはタイピングによる入力装置の習熟は必須であるので、動機付けをはっきり示していくことが必要であると考えられる。

パソコンの電子メールとなると利用経験は半数以下という結果になっており、これは携帯電話のメール機能の手軽さなどとも関係していると考えるのが妥当であるが、携帯電話のメール機能とより大規模なデータの送受信を可能としてくれるパソコン利用の電子メールの利用も携帯電話のメール機能とは別に、習熟し利用できるようになることが期待される。

B. パソコン・インターネット環境

1. 自宅でのパソコン所有	
ある	59
ない	23

2. 所有形態（1の「ある」の回答者）	
自己所有	11
家族と共有	30
家族所有	11
無回答	7

3. インターネットへの接続	
している	46
していない	9
わからない	3

4. 接続形態（3の「している」と回答者）	
ブロードバンド（光ケーブル、ADSL、CATV）	17
ナローバンド（ISDN、Modem）	17
わからない	12

自己所有・家族と共有も含めて、自宅にパソコンがある学生は全体の7割を超えており、その中で8割近くがインターネットに接続している状況である。しかしながら、利用時間は全般的にそれほど多くなく、利用内容もそれほど多岐に渡っていない。パソコンがあり、インターネットがブロードバンドで接続されている環境がありながら、あまり積極的に利用してはいないという姿が想像される。

C. ネット・情報倫理など

1. インターネット上の犯罪について	
自分や友人、知人などが被害にあったことがある	7
被害はないが、新聞やインターネットなどでの事件のことを読んで知っている	49
よく知らない	26

3. 著作権について	
著作権のことを知っており、注意している	28
著作権という言葉は知っているが、内容は知らない	39
まったくわからない	15

2. 電子メール・BBSのマナー	
相手を意識し、失礼や傷つけることのないよう常に心掛けている	23
特に意識したことはない	10
マナーとはどういうものかわからない	5
電子メール・掲示板の利用なし	44

そもそもインターネット・電子メールを頻度高く利用している割合がそれ程高くない中での状況であるが、昨今色々な報道などでインターネットに関わる事件・犯罪などについては半数以上が聞いたことがあり、自身・友人などが被害にあったというものもある。一方、「よく知らない」という回答も3割を超えている。このことも、知識という面においての格差が大きくなっているということを示しているものである。また、ネットワークのマナーなどは、必ずしも唯一絶対的なものがあるわけではなく、時代とともに変わっていくものである以上、「考え方・とらえ方」ということを理解させるための工夫が必要となってくる。

最後に、「著作権」についての設問は、インターネットが普及に伴い、容易に情報を劣化しないまま「コピー」することができるようになったため、そういったことに対する意識を問うために設けたものである。結果からすると、半数近くが言葉だけを知っている程度で、「まったくわからない」と合わせると65%が「著作権」に対する意識がない、或いは低いということになる。実際、授業などでも、引用元を記さずに利用したり、場合によっては十分に内容を読まずにただコピーするだけでレポートなどを作成しようとする学生もいるようであり、意識を高めるための方策を考える必要がある。

4. これからの「情報教育」の在り方

「情報教育」と言うとき、時代によっても、また対象とする学習者によっても、その内容は異なっている。「情報＝コンピュータ」という偏った見方はもちろん教員を含めて改められなければならない、コンピュータやインターネットという仕組み以外を利用する従前のメディアの特徴についても合わせて考えていく必要があるだろう。例えば、求める情報の種類によっては、図書館などにおける「紙」の媒体が適している場合もあるだろうし、身近な「人」がその情報源になることもあるだろう。特にインターネットは手軽である分、依存度が高くなりがちであるが、他のメディアとのバランス感覚もきちんと身につけてもらうことが重要であると考えられる。

従って、本学・言コミ科においては、現況をふまえると、必修の「情報」においては、パソコン・ネットワークの基本的スキル（マウス操作・タイピング含む）とワープロ、プレゼンテーション、

ホームページ作成、表計算などのアプリケーションソフトの基本的使用方法について扱うとともに、リテラシーや倫理という側面について、コンピュータやインターネット以外のメディアも含めて、できるだけ具体的かつ身近な事例によって理解を促す必要があると考えられる。

そのためには、「情報系」の科目の範囲ではなく、他の言コミ科の科目と出来る限り有機的に結びつけた形で、学生にコンピュータやネットワーク、或いは他のメディアを積極的に使う動機付けを提供することが極めて重要だと考えられる。使い道のない「スキル」や「知識」ではなく、コンピュータなどの機器をあくまでも「道具」として使っていくことにより、自然と身に付くことは多いと思われる。

もちろん、ワープロソフトやプレゼンテーションソフト・ホームページ作成ソフトなどの基本的な使い方は身につけなければならないが、実際にはワープロやホームページで表現する中身、プレゼンテーションの種類や対象というものを意識しなくては、何のためにスキルを習熟するのがわからない、ということになってしまう。特に、検定試験対策などの一部においては、スキルを身につけることのみが目的になってしまい、自ら考えるべき「内容」が欠如してしまうことがあり、危惧する面もある。そこで、情報系科目以外のものからの「要請」や「動機付け」というものの存在が重要な位置を占めてくることになる。単にアプリケーションソフトの使用法に終始するのではなく、目的をもった実践を通して様々な知識を獲得していくことが可能になると考えられる。

現在情報系科目の担当者は、いずれも「情報処理」や「情報教育」を専門とするスタッフでないという点では、比較的、他の科目とのつながりをつけやすい環境にあると言える。しかし、規模もそれほど大きくない科であるということを考えれば、より全体として有機的に連携することにより、学生の情報メディアに関わるリテラシーとスキルの向上を期待することが出来る。言コミ科においては、2004年度より「観光・英語・日本文化」という3分野を中心に、学生の希望などに応じて様々な履修スタイルをとれるカリキュラムになっているが、どの分野においても情報・コンピュータの基本的スキルや知識は必要になりうるし、そういった動機付けをもって情報科目を履修することで、卒業後も十分応用可能な知識・スキルを身につけてもらうことができるであろう。

なお、2006年度以降は、高校で「情報」を全員が履修して入学してくるわけであるが、語学や日本語表現力などの今までの状況も考え合わせると、「履修」したらちゃんと身に付いている、という状況は容易には予想しがたく、スキルの面でも知識の面でもかなりの格差があり続けるであろうことが予測される。但し、「情報」必修化前の最後の年である2005年度も、継続して学生の動向を把握することに努める必要があることは言うまでもない。

注

*本研究は、研究者3名（大和田栄・糸山昌己・山下琢己）による共同研究で、平成16年度東京成徳短期大学・特別研究費からの支援を受けている。本稿は、研究代表者である大和田がまとめたものである。

- 1) 1999年度までは、文科（国文専攻・英文専攻）という科名で、情報系科目は、全学共通科目（或いは特設科目）の下、科の外に位置づけられており、科目の設定などは、各科とは別に行われていた。過去10年間のうち、1994年度以降の科目の変遷は以下の通り。

年度	情報系開講科目
1999年度	情報処理論・情報処理演習・コンピュータ概論・情報ネットワーク概論・メディア技術演習・ネットワークコミュニケーション演習
1994-98年度	情報処理論・情報処理演習・ワードプロセッサ演習

※上記の他、国文専攻（日本語文化専攻）専門科目として「データベース演習」（1999～2004）、英文専攻（英語文化専攻）専門科目として「英文ワードプロセッサ演習Ⅰ・Ⅱ」（1996-99）、「情報英語」（2003-03）が開講されていた。

情報教育・IT 利用アンケート

このアンケートは、みなさんのパソコン操作経験やIT 環境について調査し、今後の大学でのIT を使う授業を円滑に行うための参考とするものです。(4月から1ヶ月半ほど「情報」や情報関連の授業で色々と学習をしましたが、基本的に、4月当初の段階での知識・技能についてお聞きしますので、4月以降に身に付けた知識・技能については、除いて回答してください)

- あなたのパソコン操作の経験について伺います。
Q1：今までに以下の経験がありますか？
 1. パソコン操作の経験
 a. 経験ある b. 経験はない
- 代表的な Microsoft Windows の基本操作（マウス操作、日本語入力ができる）
 a. Windows の経験なし b. Windows 95
 d. Windows NT/2000 e. Windows Me
 g. その他（ ）
- 代表的なその他のOSの基本操作
 a. そのほかのOSの経験なし b. Macintosh OS7~9
 d. LINUX e. その他（ ）
- 代表的なワープロソフト
 a. 経験なし b. Microsoft Word c. 一太郎 d. Apple Works
 e. クラリスワークス f. その他（ ）
- 代表的な表計算ソフト
 a. 経験なし b. Microsoft Excel c. Lotus 123 d. Apple Works
 e. クラリスワークス f. その他（ ）
- 代表的なプレゼンテーションソフト
 a. 経験なし b. Microsoft Power Point c. Apple Works
 d. その他（ ）
- その他のソフト（ゲームソフト、インターネット閲覧等は除く）

- Q2：パソコンの操作はどこで習いましたか？
 a. 中学校 b. 高校 c. パソコンスクール d. 独学 e. 習っていない
 f. その他（ ）
- Q3：あなたは自分で、どの程度の操作レベルだと思いますか？*複数回答可
 1. パソコン操作の経験
 a. 経験はある b. ほとんど経験がない
2. Windows の基本的な操作について（できるものにはすべて選択）
 a. マウスの操作（クリック、ドラッグなど）ができる。
 b. ウィンドウの開閉、大きさの変更などができる。
 c. ウィンドウの各部の名称、ポタンの意味、メニューの意味が理解できる。
 d. ファイルやディレクトリやフォルダの構造がわかり、新たにフォルダを作成したり、ファイル・フォルダの移動・コピー・削除などができる。
3. 日本語入力とキー操作について
 △日本語の入力は：
 a. ローマ字入力 b. かな入力 c. 日本語入力は経験ない

〈付録2〉

- ▽キーボードを打つ速度は（いづれか一つ）
 a. キーを1つずつ押しながら打つ感じ
 b. 向文字か1回ぐらいはキーの位置を覚えている
 c. キーの位置はほとんど覚えており、1秒に1~2個の速さで打てる
 d. キーを見ないで1秒に数個の速さで打てる
4. インターネットのホームページ閲覧について（できるものにはすべて選択）
 a. URL アドレスを入力して特定のページを開覧することができる。
 b. Yahoo! や eoo、Google などの検索ページ・サイトを覚えて、目的のページを探し出すことができる。
 c. ネット上からソフトウェアをダウンロードして、パソコンにインストールできる。
5. インターネットのホームページ作成について（できるものにはすべて選択）
 a. ホームページ作成ソフトでWEB ページを作成できる。
 b. エディタで直接 HTML を書いて WEB ページを作成できる。
 c. CGI や Java、Java Script、Flash など動的なWEB ページを作成できる。
6. パソコンで電子メールを送受信することができる
 a. はい b. いいえ
7. ワードプロを使って、文章の作成・編集ができる
 a. はい b. いいえ (できる場合はソフト名：)
8. 自分でプログラムを作ることができる
 a. はい b. いいえ (できる場合は使っている言語：)
- Q4. 以下の各操作の意味が分かり、また実際にできますか。
 それぞれ、イエニで答えてください。なお、全部ニであって全く問題はありませぬ。
 イ 意味が分かり、操作も確実に（本々を免ず）でできる。
 ロ 意味が分かるが、操作も多分できると思ふ。
 ハ 意味は分かるが、やり方は分からない。
 ニ 意味が分からない。
- ▽フロッピーディスクを初期化する。 イロハニ
 ▽ワープロソフトの使用中に、自分のフロッピーディスクの中に jmsyo2 というフォルダを新たに作り、そこにワープロソフトで作った文章を保存する。 イロハニ
 ▽ワープロソフトで、文章のコピー・アンド・ペーストをする。 イロハニ
 ▽ホームページを見て、気に入った画像をデスクに保存する。 イロハニ
- Q5. あなたは1日平均して、どれくらいの間、パソコンを使っていますか。また、その用途は主に何ですか。
 △用途→ [] 時間
 a. ホームページ閲覧 b. ワード c. 表計算 d. データベース
 e. 画像処理（デジタルカメラの操作なども含む） f. ホームページ作成
 g. チャット h. 電子メール i. ゲーム j. MP3 等の音楽データ処理
 k. 業務用の専用ソフト l. プログラミング m. コンピュータグラフィックス
 n. 数値計算 o. その他 p. 使っていない
 (その他の場合、具体的に)
- Q6. コンピュータや情報処理関係の資格を持っていますか書いてください（いくつでも）

8. パソコンやネットワークを利用するために以下の質問に回答してください。
- Q1. 知らないから悪いけど電子メールに添付されたファイルを開いたことがありますか？
1. 特に意識せずに開いたことがある
 2. 開かないようにしている
 3. 目的がわからぬ
 4. 電子メールを開いたことはない
- Q2. コンピュータウイルスに感染した経験がありますか？
1. 感染したことがある
 2. 感染したことはない
 3. 感染しているかどうか分からない
 4. 感染の確率が分からない
 5. パソコンを持っていない
- Q3. ウィルス対策ソフトを利用していますか？
1. ウィルス対策ソフトを種類し、最新のウイルスパターンファイルを常に更新して利用している
 2. 利用しているが、ウイルスパターンファイルを常に更新しているわけではない
 3. ウィルス対策ソフトは利用していない
 4. ウィルス対策の意味が分からない
 5. パソコンを持っていない
- Q4. インターネット上の情報について知っているですか？
1. 自分や友人、知人などが検索に当たったことがある
 2. 検索はないが、新聞やインターネットなどで事件のことは調べて知っている
 3. よく知らない
- Q5. 電子メールやインターネット上の掲示板を利用する際のマナーについて
1. 宛先を誤謬し、迷惑メールを送ることがないよう心がけている
 2. 特に意識したことはない
 3. マナーとはどのようなものか分からない
 4. 電子メールや掲示板を利用したことはない
- Q6. 著作権について
1. 著作権のことを知っており、注意している
 2. 著作権という言葉は知っているが、内容は知らない
 3. まったくわからない
- ご回答ありがとうございます。

9. あなたのパソコン環境について伺います。
- Q1. 現在のパソコンの構成を教えてください。
- a. 母板
 - b. 電源装置 (アダプター等)
- Q2. 母板 (アダプター) にパソコンが取り付けますか？
- a. ある (←Q3へ)
 - b. ない (←Q7へ)
- ※Q2で「1. ある」と回答した方
- Q3-1. パソコンは自分が開発していますか？
- a. 自分が開発している
 - b. 自分や家族でそれぞれ所有している
 - c. 家族と共有している
 - d. 自分では全く開発が所有している
- Q3-2. パソコンの種類
- a. デスクトップ
 - b. ノートパソコン
- Q3-3. パソコンのOS
- a. Windows95
 - b. Windows98
 - c. Windows Me
 - d. Windows NT/2000
 - e. Windows XP
 - f. Mac OS7-9
 - g. Mac OS X
 - h. その他 (その他の種類)
- ※Q2で「1. ある」と回答した方
- Q4. 母板 (アダプター) のパソコンはインターネットに接続していますか？
- a. 接続している (←Q5へ)
 - b. 接続していません (←Q6へ)
 - c. わからない
- ※Q4で「1. 接続している」と回答した方
- Q5. インターネットにはどのように接続していますか？ (複数可)
- a. 1. フレッツ
 - b. ADSL
 - c. CATV
 - d. ISDN
 - e. 電話回線 (モデム)
 - f. 携帯電話やPHSの回線を利用して
- ※その他 ()
- a. その他 ()
 - b. わからない
- ※Q4で「2. 接続していません」と回答した方
- Q6. プロバイダに加入する際の承諾はありますか？
- a. 若く加入する
 - b. 承諾書と申し込みに記入した
 - c. 加入する気はない
- ※Q2で「2. ない」と回答した方
- Q7. 購入する承諾はありますか？
- a. 若く購入する承諾
 - b. 承諾と申し込みに記入したい
 - c. 購入する気はない